

特別の教科道徳授業でめざす、学びに向かう力、主体的、対話的な深い学び、多面的・多角的思考を育成する授業づくりの在り方について

Aiming at a special morality class (道徳), this research paper investigates a class that attempts to incorporate the power of learning, proactive and interactive deep learning, and how to create a class that fosters multifaceted thinking.

森 上 一 美

Kazumi MORIKAMI

はじめに

「道徳」の教科化の趣旨は、学校社会からいじめ問題を無くすために、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度等の道徳性を養い、自己の生き方の考えを道徳的価値に基づき深めて、道徳の実践力を育成することである。

内容としては、①自分自身のこと、②他者とのかかわり、③自然や崇高なものへのかかわり、④集団や社会とのかかわりについての志を磨き、敬意、感謝、喜びの感性を豊かにしていくことである。

これらを具現化していくために、本著では、光村図書教科書の題材を基に、どのような授業構想を描いて授業実践していけばよいか、構想と具体的な実践例を紹介する。

特別な教科「道徳」の授業構想の根幹には、次の2つの概念が必要である。

★ 例えば、「健康や安全に気を付け、物や金銭を大切に、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。」という授業目標を設定しても、その価値を押しつける授業展開をしていくのであれば、子ども達には、その道徳性を真に自分

のものし、実践力が活かされるような習得はできないのである。

★ 道徳授業を通して、豊かな道徳性と道徳の実践力を育成されていくことにともなって、今の学級が、すべての子どもたちにとって、温かく楽しみのある居場所になり、いじめ問題やトラブルのない、充実した学級経営が実現していくということになるのである。

そして、更に、教師として学級担任として、子ども達から真に強く信頼される人間関係の構築が実現されることにつながっていく。

以上のことを踏まえ、具体的な授業の展開の仕方について、授業構想の基本概念と具体的な授業展開例を紹介する。この機会に学校教育が道徳授業実践に役に立つことを祈念。

1 子どもの変容をめざす。

2 この題材から何を学ぶべきかを、子どもに考えさせる。

3 授業の最後に、教師コメント

4 授業展開は、ステージ1→ステップ→ステージ2

5 考えを深めるために、聞き合い活動をする。

6 道徳授業の特性（国語や社会等の他教科との違い）

7 道徳教科の評価のあり方について

8 多角的、多面的な思考について

1 子どもの変容をめざす

道徳授業を通して、子どもがどう変容したかを、教師も子ども本人も自認することが、道徳性と道徳的実践力の育成に不可欠なことである。これが、道徳授業が特別の教科になった理由であり、道徳授業の評価である。

★ 変容とは、次の3点です。

① 多様性を知ること

自分の考えたことと別の考えが在ることに気付くことである。

② 深みを知ること

自分の考えと同じような考えであったが、根拠がしっかりあること、表現が的確で、みんなに分かりやすいと感じること、他の事案とも関連があることに気付くことである。

③ 曖昧だったことが、確かなものになったということ

始めは、何となくこう思うという感じであったけど、友達との意流をしたり、じっくり考えたりした結果、自分の腹にきちんと落ちて、しっかりと自分のものになったと体感することである。

2 この題材から何を学ぶべきかを、子どもに考えさせる。

まず、教師が、この題材から子どもに何を学ばせようか考えましょう。教科書の題材を、冷静に読んで、このことを道徳授業に題材として活用する意味を、フリーに考え、自分がもし、この題材を作成し道徳教科書に引用するならば、どんな意図があるのかと、ねばならないという感覚でなく、自分でどんな意味づけをしていこうかという考え方が有効である。それを思い浮かべた上で、授業の後半に、子ども達に「この題材から何をまなべばいいのか、考えてよう。」と呼びかけていく。

この題材から何を学ばしたらいいのかを、考えることは、教師にとっても難しいことなので、子どもにとっては大変難しい事である。

しかし、この授業で子どもたちに、道徳性を磨いていくためには、ぜひ、難しく、なかなか考えが浮かばないことが多いと思うのであるが、何だろうと考えることは、後で受容していくための準備として、必要なことである。

そのためのステップとして、「友達はどう考えているんだろう？」と気にかけるようにして、ペアトークやグループトークをすることが効果的である。そのトークを通して、友達の誰かからいい考えを聞き、「なるほどなあ！」と感じられるか、自分の考えと同じであることが分かって納得できるのである。また、「そうか、そういう考えもあるのかあ。」という多様性に気付くこともある。みんな分からず困っている状況を把握することもあるのである。いずれにしても、自分個人で考え、自分たちで意見交流することでは、その後の授業展開で、真に納得することにつながっていくのである。これが道徳性を育み大変有効な手段となるのである。

3 授業の最後に、教師コメント

子ども達に意見交流をさせてステージを上げさせた後に、「先生はこう思うよ。」「先生だったら、〇〇していこうと思うよ。」というコメントを発信することが大事である。

そして、この教師コメントは、授業の最後のとめとして、実践することが有効なのである。

先程の、子どもに何を学ばせるか考えさせた後、「先生は、この題材から、次のようなことを学ぶことが大事だと思いますよ。」と、教師コメントすることで、子ども達に納得させる有効な手立てである。

子ども達が、自分自身で考える機会がないまま、教師コメントを聞くことは、突然、自分の認識から遠く離れた内容であることが多いので、手の届かない状態、自分の心に親和的に入りにくい状態を回避することができるのである。

「なるほど、そういうことなんだ！」と、情動を動かせることが大事である。

4 授業展開は、ステージ1→ステップ→ステージ2

子どもたちの道徳性を磨き、変容させることは、授業の初めは、「ステージ1」に居るととらえ、本時の題材を学習して、子ども達自身を「ステージ2」へ上げることを目指すという授業展開の構成です。「ステージ1」から「ステージ2」へ上昇させるには、階段やエレベータでを使い2階へ上がり、高い所にある物を取るために、椅子や机や物置等を踏み台に使うように、「ステージ1」→「ステップ」→「ステージ2」という3段階の授業展開が必要である。

つまり、**ホップ** → **ステップ** → **ジャンプ**

さらに、**1を知り** → **1.5へ考え** → **2に活用する** という展開である。

ステージ1 題材を読んだ後の、初発の感想を自由発言する場である。

題材を読んで、率直にどう感じたかは、現段階における、子ども達の志や価値観の実態です。ですから、教師は初発の感想の自由発言を「なるほど、〇〇と思ったんだね。」と受けとめていくことが大事である。

子ども達の変容を目指すために全肯定が大事である。どんなレベルの思いでも受容していくことが必要である。人は全否定されては、「じゃあ、こうしよう。」という変容は出来ない。「同じこと思った人います?」「なるほど、そうですか?」「別のこと思った人います?」と問い、ステージ1における子ども達がどんな感想を抱いたか、全体の傾向を子ども達にも把握させることが必要である。

ステップ ステージ1からステージ2への橋渡し

ステージ2へ変容させるための踏み台として、キーワードを設定していきます。キーワードは、「登場人物のセリフ」、「題材の文章の中からの一文」から選択します。このキーワードを、教師が子ども達に指定していき、改めて着目させることで、通読したときの初発の感想から、何か意識が変わりそうな要素を持つものを、キーワードとして選択していく。

「ステージ1」の初発の感想を終えたら、「では、～を見てください。さて、この登場人物〇〇さんの発言やこの行為の意味には、どんなものがありますかね?」と問いかけていくことが有効である。実は、登場人物に悪意がなかったんだと気付かせていき、そして、悪意があったと思った登場人物には、そうか正義があったんだ。」と、子ども達に認識

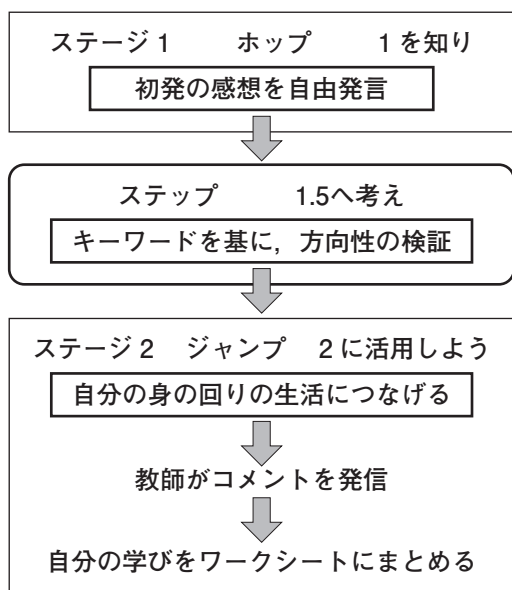
させることが、自分の課題にとらえる変容させるために大事である。

ステージ2 今日授業を通して、子どもたちが変容する場である。

本時の題材から学んだことを、自分の身の回りの生活につなげて、今からこうしていこうと思考していき、我が事と捉え実践していこうとする志を生み出して言います。そのために、次のように問いかけていくことが大事である。

「自分だったらどうしますか?」「これまでに、似たようなことはなかったですか?」「これから、このようなことが起きたら、どうしていこうと思いますか?」

豊かな心育む道徳授業の基本的な展開



ステージ1→2へ授業展開のまとめ

ステージ1 1を知り

子どもたちに黙読させた後、教師が音読していきましょう。登場人物のセリフを、感情を込めて音読することで、その人の気持ちをより、味わわせていく効果がある。

ステップ 1.5へ考え

主題にかかわるキーワードを着目させ方向性を検証します。善と悪で判定なく、すべての登場人物の心の奥底にある正義を理解させます。「最初から悪意があったわけではなく、その人から見た景色が〇〇だった。」、これが多面的な考えであり、そして、登場人物一人ひとりの多様性を探ることが、多角的な考えである。

ステージ2 2に活用する

以上の展開により、価値を押しつけるのではなく、自らの生活につなげ、自分の課題として実感をさせることができるようになります。そして、自分の考えを磨くために、友達の考えを聞き入れる活動を推進させていこう。つまり、話し合い活動でなく、他者の考えの聞き合い活動が、話すことが苦手な子どもたちにとっても有効な概念である。「友達にどう思ったと聞いてみましょう。」という問いかけが必要。

教師コメント…「そうか、そういう考えがあるんだ。」と、教師のコメントを聞いた子どもの情動を動かし、教師への信頼関係を築く機会にしていくのである。

ワークシート…本時を振り返り、自分の考えがどう変わったかや、友達に伝えられない自分自身の課題をシートに書き込ませていこう。

5 考えを深めるために、聞き合い活動をする。

「対話的な学び」＝「話し合い活動」というイメージであるが、でも、子ども達には、「話し合い活動」を苦痛に思う子が居る。「話し合い活動」は、お互いが自分の考えを述べ合う活動である。ただ、子どもの中に道徳性に関する自分の考えをその時点で、獲得でき

特別の教科道徳授業でめざす、学びに向かう力、主体的、対話的な深い学び、多面的・多角的思考を育成する授業づくりの在り方について（森上 一美）

ていない子も居ます。そして、自分の考えを話さない友達を批判する子もいるかもしれない。ですから、子どもたち皆に意欲に実践させるために、「聞き合い活動」をさせていくことが大事である。自分の考えを持った子どもも、他の友達はどんなこと考えたのかなど関心を持たせることは重要である。

そして、自分の考えを持ってない子どもが、友達はどうか考えたのか、自分の考えを持てるようにするために必要なことである。

ですから、「では、お隣さんや、グループの人に、どう考えましたかと聞きましょう。」と、呼びかけていくのが適切である。

自分の考えを持てた子は「僕は〇〇と思ったんだけど、みんなはどう思った？」

自分の考えを持てなかった子は「僕は分からないので、みんなはどう思った？」と、語らせていくように努めよう。

6 道徳授業の特性（国語や社会等の他教科との違い）

道徳授業の特性を明らかにしてする。題材は、国語の教科書の題材を近いものがある。そして、偉人伝の題材ですと、「道徳授業が社会科の授業になっちゃわないかな。」と不安に思うことがある可能性があるのである。

そこで、道徳授業の本質を述べます。道徳授業の目指す答は、題材の外にあるのである。題材から離れて、自分のこれからの生活における課題として捉え、こうしていこうと思うことが、道徳性を磨き実践させるため必要なことである。

それに対して、国語は、教師の発問の答は題材の中になければならない。登場人物がどんな思いか、情景の表現を、文脈から読み取ることがが読解力である。社会科では、偉人の実績や功績を捉えた人物理解である。です

から、国語や社会等は題材の中に答があるが、道徳は、題材の外に答があると子どもにも認識させることが、実践力を引き立てることに導かせるのである。

7 道徳教科の評価のあり方について

道徳教科の評価は、子どもの人物評価である。ですから、もし、保護者から不満の声が出たりしたら、他の教科の場合と違って問題が大きい。保護者から、先生は自分の子のことを分かっていないんじゃないかなという、認識になってしまうかもしれない。そうなると、担任批判が起こり、信頼関係を失うことになりかねない。そこで、道徳教科の評価は次のような方法を推奨していく必要がある。

毎時間の道徳の授業で、自分がどうビフォーアフターしたかということ、意識させていくことが大事である。それだから、学期末や年度末の道徳の評価をする時期に、子ども達に、「これまでの道徳の授業で、こういうことが自分は一番変わったな。」という思いを、レポートさせていこう。短い文で結構です。通知表の所見の文字数を同じような量を示してあげよう。

その思いをレポートさせ、回収して精読して、もし納得できないときは、その子どもに「これどういう意味？」等と問うことが大事である。話を聞いて、思いを理解することで、その子の道徳性を掴むことになるのである。

子どものレポートの表現を、教師の視点で編集していき、これを通知表の所見にしていくとよい。こうすることで、表現は異なっても、子どもの思いをきちんと捉えることになるので、子どものことを理解した評価であると、保護者にも認識してもらうことができるものと考えられる。

また、働き方改革という観点からも、この

評価の仕方は、効率性があり、適格性も高い評価になるのである。

8 多角的、多面的な思考について

多角的多面的な思考の視点として、まず、登場人物の立場が異なれば思いが分かれるます。そして、子どもたちの受け止め方にも、それぞれ個性により多様性あるのである。さらに、登場人物の言動に悪意が見えても、実際には正義であったという多角性や、事案によって、事案そのものに深い意味があり多面性があるのである。

道徳授業の実践例

1年 かぼちゃの つる

自分を大切にすることについて学びます

わがままをしないで

題材のあらすじ

かぼちゃばたけのかぼちゃのつるが ぐんぐん道を終えて伸ばしていききました。

すると、みつばちやちょうちょやスイカが次のように声をかけました。

「かぼちゃさん、かぼちゃさん、そっちへ伸びてはダメですよ。」

「あなたの畑は まだまだ すいていますよ。そっちへ伸びた方がいいですよ。」

「ここは、私の畑だから入って来ないでくださいよ。」

すると、かぼちゃは

「そんなこと かまうものか。」「いやだい。僕、こっちへ伸びたいんだ。」

「ちょっとくらいいいじゃないか」と反論しました。

そして、子犬が通りかかって「ここは、皆の通る道だよ。」と話しかけました。

かぼちゃさんは、「またいで通ればいいじゃないか。」と言ったら、子犬は怒って、かぼ ちゃのつるを踏みつけました。

「踏まれたって、平気だい。」かぼちゃは元気にいいました。

そこへ、トラックがやってきて、かぼちゃのつるを切ってしまいました。

かぼちゃさんは、「痛いよ、痛いよ、ああん、ああん。」と

ポロポロ涙を流して泣きました。

子どもたちに、この題材から次のようなことを学ばせたい

- ★ かぼちゃは、わがままで人を困らせても構わないと、悪意があった訳でないのではないのではないか。自分がこうしてみたいと願ったんですね。でも、最後に事故が起きて、落ち込んでしまった。
- ★ こうしたことから、これからの生活で、こうしてみたいと思ったときに、皆から反対を受けたら、何か問題があるかなと、自分の思いを考え直すようにしよう。
- ★ そして、反対する人も、相手の気持ちを反対するだけでなく、どんな思いかをしっかり聞いて見よう。それから、「もしトラックが来たら、ケガをしちゃうよ。」と、危ないことを予告していく必要がある。
- ★ 事故やトラブルが起きたら、「ごまあみろ。」と、全否定するのでは、相手の心を傷つけるだけになるのである。

学びにつながるキーワード

- ★ 子犬は怒って、つるを踏みつけました。「ふまれたって、へいきだい。」

特別の教科道徳授業でめざす、学びに向かう力、主体的、対話的な深い学び、多面的・多角的思考を育成する授業づくりの在り方について（森上 一美）

多角的・多角的思考

- ★ 怒った子犬に踏みつけられても、平気でいられるということは、かぼちゃ君には、わがまま、悪意があると見えても、そうでない捉え方があります。
- ★ ただ注意するという視点だけでなく、思いの理解に努め、大変な危険なことが起きてしまうかもしれないと予測して、伝えてあげようと思うこと。

授業展開

ホップ 〈1を知り〉子どもの初発の感想の自由発言例

- ・ かぼちゃわがまま、自分勝手
- ・ 事故が起きたのは、ごまあみろだよ。

すべての感想を「なるほど、そう思ったんだね。」と受け入れていきましょう。

ステップ 〈1.5へ考え〉キーワードの設定をしていく

- ★ 怒った子犬、につるを踏まれても、「へいきだい。」とかぼちゃが言ったのは、かぼちゃの思いついて、どういう意味だと思いますか？

ジャンプ 〈2へ活用する〉この題材から何を学べばいいかな？

- ★ しばらく考えその後、友達に「どう思う？」と聞き合ってみましょう。
- ★ もしこれから、友達がかぼちゃくんのように、しようとしたら、君はどう思う？
- ★ 子犬君やスイカ君、ミツバチ君だったら、事故が起きて泣いてる友達に、どう声かけてみますか？

教師コメント

何か気になることがあったら、ただ攻める

だけじゃなく思いをしっかりと聞いてみよう。みんなに支援されないときは考え直そう。危ないことを予測して語ろう。

2年 黄色いベンチ

みんなで気持ちよくくらす
ことについて学びます みんなで使うものだから

題材のあらすじ

降り続けていた雨が上がりの日曜日の今日は、すっかりよい天気になりました。

「たかし」と「てつお」は、公園へおもちゃの飛行機を飛ばしに行きました。

二人は話しあって、低いところからじゃ、よく飛ばないから、あのベンチの上から、飛ばそうということにしました。

そうしたら、紙飛行機はよく飛ぶようになりました。

雨上がりの公園には、まだあちこちに、水たまりがありました。二人のくつも、ドロドロですが、全然気づきませんでした。二人は夢中になって、ベンチの上から、何度も何度も、飛行機を飛ばしていた。

疲れた二人は、少し休んで、ブランコに乗りました。汗をかいた顔に、冷たい風が当たって、とてもいい気持ちになりました。

そこへ、五つぐらいの女の子とお婆さんがやってきました。女の子は、走ってきて、ベンチに座わり、「お婆ちゃん、早く早く。」と呼びました。

すると、「まあまあ、こんな泥だらけのベンチに座って、洋服が泥だらけですよ。」お婆さんは、女の子を立たせて、泥をふいてあげています。

たかしとてつおは、「はっ。」として、顔を見合わせました。

子どもたちに、この題材から次のようなことを学ばせたい

- ★ 楽しく遊ぶことは大事ですね。そして遊び方を工夫することは、とてもいいことです。でも、そのときに、見えていないこともあるんですね。
- ★ つい夢中になって楽しんでいて、気がつかない、周囲の人に迷惑をかけるようなことが起こってしまうかもしれないですね。
- ★ 自分たちのやっていることを、周りの人からどう見えるのか、周りの人に成りきってみて、今、自分たちのやっていることを、岡目八目、俯瞰的に物事をみる、客観視することを心がけよう。
- ★ そして、誰かに迷惑をかけていることはないか、もし、この後にここで周りの人が過ごすようなことがあれば、迷惑をかけることがないか、気にかけていくことが大事ですね。

学びにつながるキーワード

- ★ 二人のくつは どちらでもありますが そんなことには気がつきません。二人は むちゅうでひこうきをとばしました。
- ★ たかしさんとてつおさんは、はっとして、かおを見あわせました。

多角的・多角的思考

- ★ 自分たちが必死になって、悪意がなく夢中に活動していることにおいて、想定外の、周囲の人に迷惑を後でかけるようなことがあるのではないかという、多様性を捉えていきましょう。

授業展開

ホップ 〈1を知り〉子どもの初発の感想の自由発言例

- ・二人は楽しんでいたのでしょがないですね。
- ・女の子もベンチをよく見たらよかったのね。
- ・でも、おばあさんも、女の子も気づいたときは、驚いたでしょうね。

ステップ 〈1.5へ考え〉

- ★ 夢中になると、人は見えなくなるものがあるんですね。
- ★ 二人は、ハッとして顔を見合わせたのはどんな思いなのでしょう。

ジャンプ 〈2に活用する〉この題材から何を学べばいいかな？

- ★ しばらく考えその後、友達と、「どう思う？」と聞き合ってみましょう。
- ★ この題材のように、自分たちが楽しむ行動をしていたときや、その後で、誰かに辛い思いをさせたかもしれないという経験は、あると思いますか？

教師コメント

- ★ 遊んでいない、別の人になりきってみて、今、自分たちがしていることを他の人が見たら、どう見えるか、気遣っていきましょう。

3年 生きているなかま

命あるものすばらしさを 感じる心 みんな生きている

題材のあらすじ

「今年は、自分でトマトを育てないあ。」昨年の夏休みに、農家に泊まって畑のお手伝いをした「やよい」さんが言いました。畑で真っ

赤になったトマトを、自分でもいで食べたときの美味しさが忘れられないのです。

そこで、「やよい」さんは、ベランダにプランターを置き、トマトを育てることにしました。園芸店に土と肥料と苗を買いに行きました。プランターに植えた苗は、20cmぐらいです。次の朝、「やよい」さんは、いつもより早く起きて、トマトに水やりです。次の日も、その次の日も、トマトの様子を見に行きました。トマトを育て始めてからは、自分で起きるようになりました。

今朝、「やよい」さんは、「早く大きくなったね。」と、トマトに話しかけました。トマトは生き物です。だから、小さな、苗が伸びて葉が大きくなり、花が咲き、実がなるまで育ちます。「やよい」さんも、小さな赤ちゃんだったのに、ずいぶん大きくなりました。思わず、トマトに話しかけたのは。毎日大事にしているうちに、トマトが「やよい」さんにとって、生きている仲間になったからでしょう。この頃、「やよい」さんは、アリヤスズメにもお話をするようになりました。みんな生きてる仲間なんだという気持ちが生まれてきて、楽しくなってきました。

子どもたちに、この題材から次のようなことを学ばせたい

★ 普通、植物や動物は、仲間と思うことは、ほとんどないですね。だけど、植物も動物も命があって、毎日の適切な生活で、成長して育っていくんですね。そうすると、愛着が沸いてきますね。ペットを飼って留人は、その可愛がっているペットは、ある意味では家族の一員ですね。

★ ですから、美味しく育つ野菜でも、可愛く育つペットや動物でも、とても

愛着が沸き、可愛い大事な存在になりますね。そうであれば、余計に、家族や友達、身の回りの方々も、お互い命を育み、生きている存在として、とても親和的な大事な存在であると、一層強く感じていきますよね。

★ 身内の人々に敬意と感謝の気持ちを豊かに抱くために、植物やペットや動物等や人や万物に対して愛着心を抱いていくことが、自分の人生を元気に楽しく生きていくことにつながっていくことを感じさせましょう。

学びにつながるキーワード

★ 毎日大事にしているうちに、トマトが「やよい」さんにとって、生きるなかまになったからでしょう。

多角的・多面的思考

★ 人間ではない、他の生物（植物や動物）でも、大事に関わっていると、同じような生きる仲間という感覚が生まれてくるといって、柔軟な考え方や多様性の視点を育ませましょう。

授業展開

ホップ 〈1を知り〉子どもの初発の感想の自由発言例

・ トマトなどを生きる仲間と感ずること、なかなか思えないです。

すべての感想を「なるほど、そう思ったんだね。」と受け入れていきましょう。

ステップ 〈1.5へ考え〉キーワードの設定をしていく

★ 思わずトマトに話しかけたのは、「や

よい」さんの気持ちを演じてみましょう。トマトにありがたうという気持ちをこめて、大きな声で「いただきます。」という気持ちを演じてみましょう。

ジャンプ 〈2へ活用する〉この題材から何を学ばばいいかな？

- ★ しばらく考えその後、友達と、「どう思う？」と聞き合ってみましょう。
- ★ もし、毎日お世話をしている植物やペットや動物を、生きる仲間と親近感を感じたとき、その上で、家族や友達に対する思いはどう変わると感じますか？ 身近にある植物や動物はどんな存在でしょうか。

教師コメント

今大変世話になっている家族や友達、身の回りの人々への感謝と喜びの気持ちを大きく深く磨くために、身の回りの万物に愛着を抱いていくといいでしょう。

4年 花 さ き 山

自分を大切に作る心 人の心の美しさ

題材のあらすじ

花さき山に山ンばという婆の話です。この山ンばは、ふもとの村の人間から怖がられていた。悪いことが起こったとき、すべて山ンばのせいになされていました。

その花さき山へ、あやという少女が、お祭りの準備のために山菜を取りにやってきたのです。そして、山ン場と出会い、いろいろな話を聞きます。

自分は、ふもとの村の人間から怖がられているが、本当は何も悪いことをしていないこと。そして、この山が、どうしてきれいな花

が咲いているのかという話です。「この花は、ふもとの村の人間が、優しいことを一つすると一つ咲く。あや、お前の足下に咲いている赤い花は、それはお前が昨日咲かせた花だ。」

この花さき山一面の花は、みんなこうして咲いたんだ。辛いのを辛抱して、自分のことより人のことを思って、涙をいっぱいためて辛抱すると、その優しさで、けなげさが、こうして花になって、咲き出すのだ。優しいことをすれば花が咲く。命をかけてすれば山が生まれる。嘘ではない。本当のことだ…。」あやは、家に帰って山ンばの話をしたが、両親は全然信用しなかったです。次の日、もう一度、花さき山に行ってみたけど、あの美しい花も花さき山も山ンばも見当たらなかったです。その後ときどき、「あっ！今花さき山で、おらの花が咲いてるな」って思うことができました。

子どもたちに、この題材から次のようなことを学ばせたい

- ★ 花さき山は、あやの心の中にあっただけですね。つまり、人の心にはみんな花さき山があると思ひましょう。自分がいいことすれば、綺麗な花が心に咲く。友達がいいことをしたのを知ったときも、綺麗な花が心に咲く、うれしい。悲しいこと知ったときに、心につゆが入り悲しい。
- ★ 心の中の花さき山に綺麗な花でいっぱいにしましょう。そのためには、人に喜んでもらうこと、人のためになることに努めましょう。
- ★ 花さき山に綺麗な花が咲くということは、友達や家族などの身の回りの人が何かいいことをしてくれたとき、喜んでくれていることだと、とらえるていきましょう。

特別の教科道徳授業でめざす、学びに向かう力、主体的、対話的な深い学び、多面的・多角的思考を育成する授業づくりの在り方について（森上 一美）

学びにつながるキーワード

- ★ おっかあはどんなに助かったか、そよは、どんなに喜んだか！
- ★ あんちゃんだからしんぼうしている。目にはいっばいなみだをためて。
- ★ やさしいことをすれば花がさく。
- ★ いのちをかけてすれば山が生まれる。

多角的・多角的思考

- ★ 山んばは、悪さをするやつだと、とらえる人がいるように、友達や身の回りの人を悪く評価する決めつけをすることがありますが、真実はそうでないことがあります。人の捉え方に多様性がありますね。

授業構想

ホップ 〈1を知り〉子どもの初発の感想の自由発言例

- ・花さき山、奇妙な山だね。山んばに会うと怖くてびびっちゃう気がします。
- ・いいことすればちゃんときれい花が咲いて、すごいね。
- ・あやちゃんは、えらいね。家族のためにお手伝いしているよね。

ステップ 〈1.5へ考え〉

- ★ いいことすれば、人は喜んでくれて、嬉しいね。
- ★ 自分が辛抱することで、友達や家族が喜び、信頼され、好かれるんだね。

ジャンプ 〈2へ活用する〉

- ★ この題材からどんなことを学んだらいいか、しばらく考え、その後友達と、「どう思う？」と聞き合ってみましょう。
- ★ 最近、その人の心の中の花さき山に花咲かせたということありますか。

- ★ これから、誰かに喜んでもらえることをして、その人の心の中の花さき山に、花を咲かせてみようということありませんか。

教師コメント

- ★ 人を〇〇だと決めつけてはいけないね。そして、みんなの心の中に花さき山があると思って、これから、人と楽しく関わっていきましょう。

5年 夢を実現するために 自分を大切にすること 夢をかなえるために

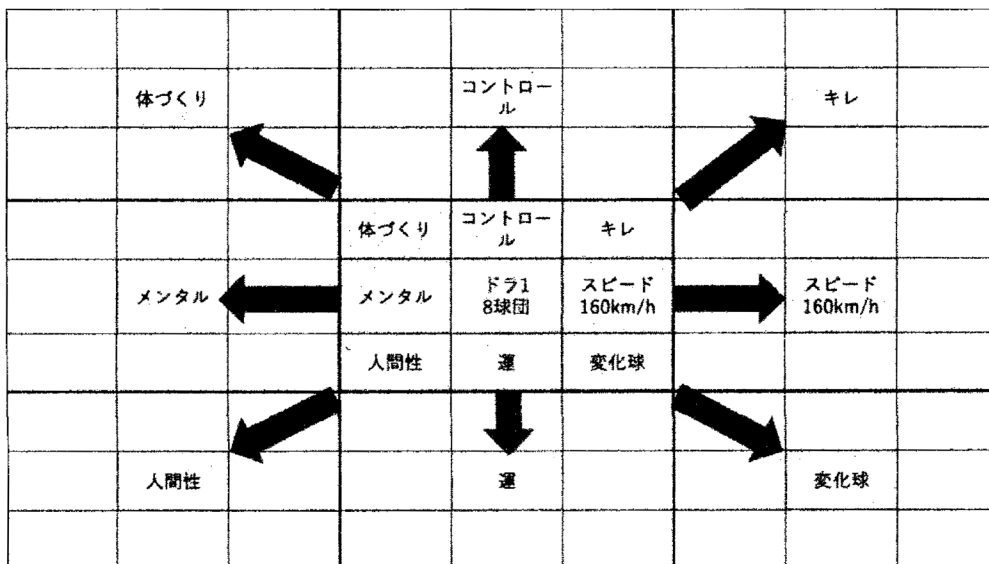
題材のあらすじ

2013年（平成25年）にプロ野球選手になった大谷翔平さんは、翌年7月19日、投手として出場した試合で、当時日本最速の球速162kmを記録しました。これから、益々の活躍が期待されている選手の一人です。

大谷選手が、本格的に野球を始めた小学校三年生の頃から、「プロ野球選手になりたい。」と言い続けてきました。中学校時代には、投手として注目を浴びるようになり、一年生のとき、球速130kmを記録しました。「一年で5kmずつ上げて、二年で135km、三年で140kmを出そう。」と決意すると、より一層練習に励みました。高校生になり、野球部監督から、「高校では一年で10kmずつ上げて、二年で150km、三年で160kmを達成しよう。」と持ちかけられました。大谷選手はこの目標を何とかして達成したいと思いました。高校では、自分たちの夢や目標の実現に何が必要なかを考えられるよう、「目標達成シート」というものを活用しました。

大谷選手の当時の夢だった、「ドラフト一位で八球団から指名される」をシートを中心

に書きました。「そこに行き着くためにどうすればよいのか」という道筋を伴ってくっきり見えるようになりました。シートに書き込んだことを一つ一つ確実に達成して、強い心と地道な努力の積み重ねが成果を出しました。



体のケア	サプリメントをのむ	FSQ 90kg	インステップ改善	体幹強化	軸をぶらさない	角度をつける	上からボールをたたく	リストの強化
柔軟性	体づくり	FSQ 130kg	リリースポイントの安定	コントロール	不安をなくす	力まない	キレ	下半身主導
スタミナ	可動域	食事 夜7杯 朝3杯	下肢の強化	体を開かない	メンタルをコントロール	ボールを前でリリース	回転数アップ	可動域
はっきりとした目標	一喜一憂しない	頭は冷静に 心は熱く	体づくり	コントロール	キレ	靴でまわる	下肢の強化	体重増加
ピンチに強い	メンタル	勢曲気に流されない	メンタル	ドラ1 8球団	スピード 160km/h	体幹強化	スピード 160km/h	肩周りの強化
波をつくらない	勝利への執念	仲間を思いやる心	人間性	運	変化球	可動域	ライナー キャッチボール	ピッチングを増やす
感性	愛される人間	計画性	あいさつ	ゴミ拾い	部屋そうじ	カウントボールを増やす	フォーク完成	スライダのキレ
思いやり	人間性	感謝	道具を大切に使う	運	審判さんへの態度	遅く落差のあるカーブ	変化球	左打者への決め球
礼儀	信頼される人間	確執力	プラス思考	応援される人間になる	本を読む	ストレートと同じフォーム	ストライクからボールに投げる	実行きをイメージ

子どもたちに、この題材から次のようなことを学ばせたい

- ★ 夢や目標をしっかりと持ち、それを実現していくためには、多様な視点から、必要な努力をしていくことが大事なのです。例えば野球などのスポーツ選手なら、野球だけをしっかりとやればよいということではないのです。
- ★ 自分が夢を持ち、それを実現していくということは、家族から支援して頂けることや、身の回りの人たちからも応援して頂けるような状況をつくることが大事なのです。
- ★ そのためには、こうして今、自分の目標に向かって、努力させて頂いていることに対して、家族や身の回りの方々への感謝と喜びの心を育てることが重要です。そして、メンタルを鍛え、ハードルを乗り越えるためには、いろいろな不安や負担などもありますが、ダメージを負わないように心がけましょう。

学びにつながるキーワード

- ★ 「目標達成シート」とは、どんなものなのでしょう。
- ★ そして、目標達成シートに書くことは、どんな視点のことなのでしょう。

多角的・多角的思考

- ★ 人としての活動なので、スポーツや音楽、芸術等の技術だけでなく、豊かな人間形成も必要とい多様性が効果的なことです。
- ★ 目標達成のために、様々な視点で目標を具現化し、人格形成も目指そう。

授業展開

ホップ 〈1を知り〉子どもの初発の感想の自由発言例

- ・ 大谷翔平選手って、すごいね。今アメリカの大リーグの選手ですよ。
- ・ 目標達成シートって、すごいものを作ってますね。

すべての感想を「なるほど、そう思ったんだね。」と受け入れていきましょう。

ステップ 〈1.5へ考え〉キーワードの設定をしていく

- ★ 目標達成シートを見て、特に驚くような視点ありませんか。
- ★ 野球をするのに、挨拶や部屋掃除をするということも大事なのですね。

ジャンプ 〈2へ活用する〉この題材から何を学ばばいいかな？

- ★ この題材からどんなことを学んだらいいか、しばらく考え、その後友達と、「どう思う？」と聞き合ってみましょう。
- ★ 大谷翔平選手のように、自分も目標を持ち、それをしっかりと実現していくために、自分の目標達成シートをつくりましょう。
- ★ 目標を達成していくために、どんな八の視点が必要でしょうか。

教師コメント

- ★ スポーツや芸術、文化等の技術を豊かにするためには、それ専門のロボットと違いますので、人間性も豊かにすることが大切なんですね。そうすることで、周囲の人から、愛情や敬意を頂けることが自分のためにもなり、貢献できます。

6年 ロレンゾの友達

B 人との関わりに関すること 友情, 信頼

題材のあらすじ

アンドレ、サバイユ、ニコライ、我が懐かしき友よ。20年ぶりの再会を楽しみにしている。愛しき故郷は変わらずにあるだろうか。明後日の18日の夕刻到着予定。25年後の今も私を友として迎えてくれることを確信している。あの思い出の村はずれの木下で、故郷での幼き日々をともにした友へ。

ロレンゾより

ロレンゾからの手紙を受けた3人の会話

「どうする。」「どうするって。その話は本当のことなのかい。」

「間違いない。3日前、この町の酒屋に刑事がやって来て、ロレンゾという男について聞いてきた。働いていた会社のお金を持ち逃げしたらしんだ。ここに立ち寄ったら知らせで欲しい。そう確かに言ってたよ。」

「しかし、警察に追われているのに、明後日この村に帰って電報を打つなんてことあるかな。「僕もそう思うよ。絶対何かの間違えに決まってる。」

「僕だってそう思いたい。だけど、刑事がそう言ってたのは確かなんだ。」

「信じられないなあ。あいつがそんなことするなんて。やむにやまれぬ事情があつてのことなんだろう。」「村外れのかしの木の下で会いたいなんて、助けて欲しいってことだろうか。」「しかし、彼が会いに来たらどうしたらいいだろう。」

約束の日、ロレンゾは現れなかった。「遅いなあ、もしかして途中で捕まってしまった

んだらうか。」「その方が良いのかもしれない。こんな状態で会いたくないからな。」3人とも複雑な思いにとらわれ、次第に口数が減ってきた。「もし、夜中に尋ねてきたらどうしよう。」

「僕はお金を持たせて逃がしてやる。いけないことかもしれないけど。」

「僕はロレンゾに自首を勧める。やっぱり罪は罪だよ。だけど、本人が納得しない場合は、そのまま逃がしてやったほうが良いと思う。」「僕もロレンゾに自首を勧める。本人が納得したら一緒に付き添っていく。でもダメだったら、警察に知らせる。」「それは可哀想じゃないか。何も僕たちがそんなことしなくても、どこかで捕まれば同じだろう。友達を裏切るようなことできるものか。」アンドレとサバイユは、驚いたように言った。

「友達をかばって逃がしてやるのも友達かもしれない。でも、びくびくしながら逃げ続けても、かえって友達が苦しむだけじゃないか。」「ニコライの言うこと分かるよ。だけど僕にはできない。ここまで逃げてきたというのは、よほどの事情があるんだらうから。」

翌朝、3人が警察に呼ばれ、ロレンゾと再会した。警察は自分たちの手違いだったと謝罪し、ロレンゾに会わせました。

「和達の手違いで、大変ご迷惑をかけてしまつて。」署長は深々と頭を下げた。「人違いだよ、僕は無実だよ。」四人は大笑いしながら、あらん限りの力で抱きしめ合った。その夜、四人は再会を祝って町の酒場で、つきることない思いで話をした。しかし、あの檜の木の下で話しあったことは、3人とも口にしなかった。酒場を出たとき、もしロレンゾが罪を犯していたならどうすべきだったのか、改めて3人は考え直した。

子どもたちに、この題材から次のようなことを学ばせたい

- ★ 真の友情や家族への愛情とは何だろう。身近な親しい人への真心とは何だろうか。これらは根幹は同一のもので、その人が真に立ちゆくためにはどうしたらいいかと、根本的な考え方が重要であるとを体感させましょう。|
- ★ 良いことした、間違っただけをした。それらが共に、大事な人が立つための大きな経験になっていくように、働きかけが必要です。

学びにつながるキーワード

- ★ お金を持たせてだまされて逃がしてやる。
- ★ 僕はロレンゾに自首をすすめる。
- ★ 逃がしてやった方がいいと思う。
- ★ 納得したら一緒に付き添っていく。

多角的・多面的思考

- ★ まずは、行為の違法性を捉えてどう対処したらいいか。そして次に、友達をかばってあげたいという気持ちなど、友達の行為に対して、どのような友達観で対処したらいいかという視点に多様性があります。

授業展開

ホップ 〈1を知り〉子どもの初発の感想の自由発言例

- ・ どうしたらいいんだろうな、難しいな対応だが。
- ・ 逃がしてやればいいかな。
- ・ 自首を進めるべきだと思う。

すべての感想を「なるほど、そう思ったんだね。」と受け入れていきましょう。

ステップ 〈1.5へ考え〉キーワードの設定

をしていく

- ★ 逃がすと思う気持ちは、友達に対してどんな思いだと思いますか。
- ★ 自首を勧めるというのは、友達に対してどんな思いだと思いますか。

ジャンプ 〈2へ活用する〉この題材から何を学べばいいかな？

- ★ しばらく考えその後、友達と、「どう思う？」と聞き合ってみましょう。
- ★ 友達に対して、自分はどんな思いを持っていきましょか。
- ★ 友達の立場には、いろいろあるかと思いますが、もし、とっても大好きな友達、信頼している友達、自分がお世話になっている友達に対しては、自分はどんな心で、起きた事案に対応していくといいのでしょうか。
- ★ これは、もしその相手が我が子であったら、親としてどうしたらいいんだろうね。もし、親とか、兄弟だったらどうしたらいいんだろうね。これらについて、皆さんどんなことを心がけていきましょか。

教師コメント

- ★ 親しい友達や家族にどう関わればよいかは、その人が人生を豊かに立ちゆかせていくためにという視点で、どう対応したらよいか考えましょか。
- ★ しくじりがあっても、罪を認めて刑を果たしていけば、その後の人生を、改めて、新鮮な感覚で豊かに生きることができるよう。
- ★ もし、犯罪を犯してしまって人を傷つけることをしてしまったら、相応の刑を受けることが、その人の魂を来世のためによくする上で必要です。

おわりに

特別な教科になった道徳授業は、学級担任として、子ども達と絆を結ぶ場であるとともに、信頼関係を築き上げる場と機会として、捉えていく。

そのために、教師はしっかりと子どもたちの発言を受信し受容することが最も重要である。すべての子ども達の発言を教師が受けとめる姿勢を子どもたちが体感し、子ども達自身も友達の発言を受信を学ぶことにつながるのである。そして、十分に子ども達に発言を自由発信させていくわけだから、教師は、学級集団の一員として、教師コメントを最終的に発信することが、子ども達との絆づくりや信頼関係構築の手段になるのである。

そして評価について。道徳が教科化されて、学級担任の先生方が一番大変に思われていることは評価である。どうやって、道徳性や道徳的実践力を評価したらいいのかと、問われている現状があるから。これについては、次のように考える。

子ども達自身に、自分の変容を明らかにさせていこう。

つまり、本時の道徳授業そのものの目的を、この45分で、自分がどう変わったかを目的化させること。これが、ステージ1からステージ2へ。1を知り、1.5へ考え、2に活用しようという展開がそのための手段である。

さらに、学期末に、これまでの本学期的道徳授業を通して、子ども自らがどう変わったかということを経括させることで、通知表の評価をしていく上で有効である。

子どもの変容の定義を、本文でも述べましたように、多様性だけでなく、確実性という概念も加えていくことが大切なことである。

子どもたちの発言の場について。道徳授業で、子ども達が対話できることは、客観的な事案についてである。個人情報や特定の友達

への私見など、それによって、子ども達間での別のブラックな問題が発生しかねない。ペアトーク、グループトークが有効なのは、お互いが、安心して話すことができる内容があること大前提である。

しかも、対話自体が主体的であり、対話活動により深い学びに成長させていくためには、「話し合い活動」を「聞き合い活動」という概念に変えていくことが有効である。

「○○について、お友達はどう思っているのか、『どう思った?』と、聞いてみようという働きかけが有効である。自信がなく、喋ること自体が苦手な子どももいる。その子どもたちに苦痛を味わわせるのではなく。「他の人はどう思っているのかなあ?」と、興味を持つことは、自分自身の学びを深めることになる。

そして、個人情報や特定の友達への私見など、対話活動には馴染まないものは、ワークシートに記入させていく。これは、先生にだけ語っていく内容を捉えればよい。

勿論、本時の授業全般で、友達との対話活動も通して、自分が変容して学べたことを、ワークシートに記載させていくこと重要である。

最後に、道徳教育として、道徳授業以外でも有効な活動がある。

これは、流行している歌の中にもいい題材なるものが多くある。そのときに着眼させることは、歌詞です。曲はメロディーに主眼がいきそうですが、道徳教育としては、歌詞の中にある道徳性を、メロディーに乗せて、曲を聴くことを通して、体感することができます。こういった方法もあることを教師は認識することが重要である。